21世紀水倶楽部だより

発　行：特定非営利活動法人 21 世紀水倶楽部
発行者：佐藤　和明
編　集：特定非営利活動法人 21 世紀水倶楽部 広報担当
〒112－0002　東京都文京区小石川 5 - 5 - 5
URLhttp://www.21water.jp/index.htm
E-mail mailto:info1@21water.jp

第 66 号　2020 年 7 月 2 日号

今年度の水倶楽部活動は！

理事長　佐藤和明

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

この２月、令和元年度の括りとなる行事、直投型ディスポーザに関する共催ワークショップと MBR の研究集会を、迫りくる新型コロナ感染症の脅威の中、何とか滑り込みセーフでやり遂げました。しかしながらその後２月末に予定していた年度事業のまとめを行う理事懇談会は中止せざるをえなくなりました。その後は３月に東京オリンピックの延期決定、４月には緊急事態宣言が政府より出され、通常の業務活動はほぼストップしてしまいました。

不要不急の集まり,活動が制限される中、当水倶楽部では押領司事務局長の主導の下、大部分のメンバーが自宅に居ながら参加できる Web 会議の手法をマスターしました。そして５月に理事懇談会、理事会と会議を重ね、6 月 23 日の通常総会に漕ぎ着けることができました。今年度の通常総会は書面評決と委任状を主とする変則的な総会でしたが、会員皆様のご協力を得て無事議案の承認をいただきました。

今年度の課題は、こうしたコロナ情勢下、水倶楽部の活動をどう工夫して継続していくかにあります。本ニュースレターでは、水倶楽部活動の基となっている部会活動について改めて三つの部会の部会長さんから紹介をいただきます。この部会活動にも現在 Web 会議を併用した手法を導入しつつあります。当水倶楽部の活動はこれまで東京を中心としたものでしたが、今回のこうした情勢を契機とし、東京以外の会員の皆さまにも主体的に活動に参加していただく機会を提供したいと思います。どうぞ皆さまの趣向に合った活動にご参加いただければと思います。試行錯誤の一年になるかと思いますが、今年度もよろしくお願いいたします。

2020 年度活動報告

2020 年度通常総会報告

理事・事務局長　押領司重昭

令和２年度の通常総会が、6 月 23 日(火)に株式会社三水コンサルタント東京本社会議室（東京都文京区小石川）において開催されました。

今回の審議事項は、次のとおりです。

１．第１号議案　令和元年度事業報告、活動計算書

２．第２号議案　令和２年度事業計画、活動計算書

正会員数 90 名のうち、書面表決、委任状を含め 56 名の方に出席いただき、各議案が事務局から説明され、夫々承認をいただきました。

今年度の総会は、先に案内しましたとおり、新型コロナウイルス感染症の関係で、会場出席者は８名のみで、多くの会員のご協力により書面表決(28 名)、委任状(20 名)で対応いただき、感染予防に配慮した形で開催いたしました。なお、例年、総会に併せて、特別講演や懇親会を開催していましたが、残念ながら、本年度はやむを得ず取り止めにしました。

総会開催に向けて、2 月から他法人の総会等の開催日を踏まえ、日程調整のうえ、6 月 23 日とし、来賓の方々への事前に案内をしておりました。しかしながら、3 月になると感染症拡大にともない他法人においては総会懇親会の取りやめの判断がなされましたので、水倶楽部でも理事メンバーで協議し、特別講演と懇親会を取り止めとしました。

一方、総会については、内閣府ＮＰＯホームページの Q&A によれば、毎年１回必ず社員総会を開催することが義務づけられているので、総会の開催を省略することはできないとのことです。法律では「社員総会の決議の省略」を定めており、書面と電磁的記録による社員総会の開催や「持ち回り決議」も制度上可能とされています。また、会員が実際に集まらずとも、様々な ICT 技術を活用することによって、実際上の会議と同等の環境が整備されるのであれば、社員総会を開催したものと認められますとなっています。

オンラインで総会を開催する意見もありましたが、90 名の会

員の OA 環境は様々であり、予行演習が難しいことや通信トラブルが生じた場合、議決が成立しない恐れも考えられることから、書面表決、委任状により、最小限の出席者で総会の議事運営を行うこととした次第です。総会報告というより総会運営の顛末記となってしまいましたが、来年度は、多くの会員の皆様が顔を合わせることができる総会となりますよう願っております。

基礎知識普及と広報部会の活動

顧問　亀田泰武

新型肺炎対応で下水道展が中止になり、参加してきたイベントや出前授業も実施がどうなるか分からない状況ですが、部会ではネット会議を２回実施し、札幌と群馬からも参加いただいています。ネット会議は今後も続けていくので、打ち合わせに来ることができなくても参加、討議が可能ですので、幅広い参加を期待しています。

必要に応じて、会員の会議室をお借りして月に１回程度打ち合わせを行っています。通常１５時から２時間程度。その後懇談しながら、事業の計画、実施、作業分担、情報交換、アイデアの掘り出しなどに努めています。２年度は３回開催し、最近２回はウェブ参加ができるようになり、小規模下水道、雨水計画などについて打ち合わせしました。次回は７／９の１４時からです。

■研究集会の企画運営：　メンバー各自が案を持ち寄り、皆でテーマ、内容、プログラム、業務分担など協議して実施しています。テーマは、NPO の趣旨に合うものであればなんでもよく、特徴として、質疑・討議の時間を長く設け、理解を深めることと、できるだけ記録を残すようにすることがあります。元年度は５月に「プラネタリー・バウンダリーと下水道」を、２月に「膜分離活性汚泥法（ＭＢＲ）のこれまでとこれからを考える」を企画運営しました。

■ホームページ運営：　家庭排水とその処理いろいろ、下水道なんでも、鉄道トイレ、昔の水回り、思い出の記など、環境や水に関わる生活などの情報を提供するようにしています。

■出前授業やイベント参加：　出前授業、イベントでの出展、説明などで、元年度は越谷市大袋小学校での出前授業、荒川・下水道フェスタ、東京湾大感謝祭の出展を実施しました。

■見学会：　歴史的な施設や干潟などの見学で、高尾山の下水道、川崎市加瀬水処理センターと渋川貯留管の見学会を企画。今年は６月５日に木更津海岸の干潟調査を実施しました。

■他団体とのコラボ：　ＧＫＰと共催の奇跡の一枚事業で事務局を担当しています。応募の映像をＨＰに掲載していて、１月にはクマムシが、口から歯針を出して、吸管虫の体液を吸っている貴重な映像が、また３月には多数の応募がありました。

■部会への参加：　こうしたいなどのことが皆の協力でできますので、参加歓迎です。連絡は 21 世紀水倶楽部トップページの「ご質問あるいは入会の方へ」から連絡をお願いします。

資源活用型下水道システム研究部会（SKG）の紹介

SKG 部会長　清水　洽

SKG 部会（Shigen Katsuyogata Gesuido）は、NPO21 世紀水倶楽部の発足当時の「直投型ディスポ―ザ普及部会」がそのスタートになります。生ごみ問題を台所改革の電化製品ディスポーザを用いて解決するとともに、その粉砕物を下水道に集約することにより下水汚泥の有機物資源として利用していこうという試みです。当時は、国土交通省国土技術政策総合研究所により北海道歌登町での社会実験が実施され「ディスポ―ザ導入社会実験に関する調査報告書」が作成されたときでした。2005 年 12 月には、当時の部会により「ディスポーザに関する調査報告会」を開催するとともに、2006 年 9 月には北海道地区で「ディスポーザ普及・促進講習会」を開催しました。そして 2011 年 10 月には「下水汚泥から資源回収とともに広がる直投型ディスポ―ザの普及」をテーマに岐阜市や黒部市での直投型ディスポ―ザ普及の実態調査の報告を受ける研究集会を開催しました。

部会は 2015 年に名称を「資源活用型下水道システム部会」と改め、ディスポ―ザの課題以外にも下水道による資源循環利用の課題について幅広く議論し、その成果を研究集会として発表してきました。最近のものは次になります。

2015 年 11 月　「他分野、他国から学ぶバイオガス利用」

2017 年 2 月　「その後の直投型ディスポーザの普及と新たな動き」

2018 年 2 月　「リン資源の課題と下水道 MAP 技術の展開」

2018 年 11 月　「下水処理場の地域バイオマスステーション化の現状と今後の展開」

そして今年の２月には NPO ディスポーザ生ごみ処理システム協会との共催ワークショップ「下水道の進化をふまえ、未来に向けたディスポーザ普及を考える」を開催しました。これらの成果は水倶楽部ホームページの“SKG 資源利用型下水道システ

ムのページ”www.21water.jp/kn/index.html にありますので、是非ご参照ください。

このようにSKG部会では下水道のエネルギー利用や処理技術の最新情報を集めて研究集会や見学会を開催しています。2か月に1回程度の情報交換を行う部会を行っていますので是非参加ください。またテレビ会議によるリモート参加も可です。

参加連絡はわたくし清水か、部会幹事の昆久雄理事にお願いします。

下水道管路分科会

理事　押領司重昭

当部会の最近の活動は、「川崎市加瀬水処理センター防災避難広場と渋川雨水貯留管」見学会(2019/11)、研究集会「集合住宅の排水設備更新・更生の今」(2017/11)、「旧藍染川の探訪」見学会(2017/11)、グループセミナー「これからの下水道管路、管理運営に求められるもの」(2017/1)と、管路に関する研究集会等や見学会を開催しております。

一方、管路に関しては、水位周知下水道制度の創設や雨天時浸入水対策ガイドライン（案）の策定、気候変動を踏まえた下水道による都市浸水対策の推進について(提言)など、下水道管路に関する新たな取り組みが始まっている状況です。さらに、下水道管路だけにとどまらず、持続可能な下水道などについても、基礎知識普及部会と連携しながら活動を展開しています。

当部会では、これら以外でも会員の方が関心を持たれているテーマがありましたら、管路に限定せず、幅広く研究集会やセミナーなどを企画し、国等の施策等、地方公共団体の取り組み、民間企業の取り組みなどをご講演いただき、現状の課題と今後の展開や進むべき方向などを討議し提案していきたいと考えています。

これまでの活動は、在京の会員を中心にしたものでしたが、Zoom を利用したオンライン部会の開催を積極的に進めております。東京に出るのは、時間と費用がと躊躇されている方がいらっしゃいましたら、是非とも当部会の活動にご参加いただきますようお願いいたします。

なお、部会の参加につきましては、竹石和夫会員、押領司重昭会員までご一報ください。

オンライン会議の取り組み

理事・事務局長　押領司重昭

１．オンライン会議活用の経緯

4月7日に、新型コロナウイルス感染症非常事態宣言が発令されました。当倶楽部では、定期的に理事懇談会等の会合を開催していますが、会場に参集した会議の開催ができない状態となりました。

このことに対し、メール等を活用して会議を運営しましたが、特に、令和2年度の事業計画に関する議論が十分にできないという課題に直面してしまいましたので、オンライン会議システムを導入することにしました。

２．理事懇談会や部会での活用と評価

先ず、理事懇談会及び基礎知識普及部会のメンバー有志により Zoom の試験運用を2回行いました。この試験において、画像及び音声に問題なく、参加者の意見交換も可能なことから、実際の理事懇談会や部会に活用できることを確認しました。

その後、理事会、理事懇談会、各部会において、6月9日まで計5回の会議・会合を開催し、6月23日の通常総会にこぎ着けることができました。

新たな発見として、遠方の会員でもオンライン会議でしたら距離や時間の制約を受けず、部会等に参加していただける利点も認識できました。今後、部会及び理事懇談会は継続してオンライン会議を活用しますので、遠方の会員の皆様にも積極的にご参加いただければと思います。さらに、研究集会等へもオンライン会議システムの活用を図ることとしています。

３．オンライン会議の使用方法

■ 必要なＯＡ環境

✓　LAN 又は Wi-Fi に接続できるパソコン又はタブレット

✓　パソコンは、Web カメラとマイクを備えていること

✓　スマートフォンからの利用も可能です。

■ 準備

✓　パソコンの場合、特段の準備は不要ですが、Zoom のアプリをダウンロードされることを推奨します。アプリなしにブラウザ上での接続も可能ですが、アプリの方がパソコンの負荷を軽減できます。

✓　タブレット、スマートフォンは、予め Zoom のアプリをダウンロードしてください。アプリは、google play ストア（android）や App Store(iPhone、iPad)から無料でダウンロードできます。

■ オンライン会議への入室

✓　事前にホストからメールで Zoom 会議室の URL が送られてきます。

✓　当日の会議開始前に URL をクリック又はタップすると Zoom 会議室に接続されます。

✓　ホストが許可すると入室し会議に参加できます。

４．おわりに

水倶楽部用として、時間制限の無い有料版の Zoom の ID を取得しました。会員間でも気軽にご利用いただければと思います。お問合せは、事務局まで。

会員だより

小平市ふれあい下水道館での列車トイレ写真展の件

清水　洽

東京都小平市環境部下水道課からの依頼により、2 月 8 日から 3 月 22 日まで小平市ふれあい下水道館において、列車トイレの写真展を開催いたしました。残念にも 3 月 6～22 日まではコロナウイルス感染防止のため休館となりましたが、休館中も小平市にお願いして NPO21 世紀水倶楽部のメンバーやその他の見学者は入館出来ました。

内容は NPO21 世紀水倶楽部の HP 記載の「日本の列車トイレの変遷」で

1. 現状の列車トイレの設置状況
2. 鉄道開設時から大正、昭和の列車トイレ
3. 戦後の列車トイレの汚物垂れ流しによる黄害の問題
4. 新幹線開業に合わせての、循環式トイレの開発
5. 真空式トイレによる列車トイレの状況

を A4 サイズ写真を中心にした写真展です。平日は小学生の見学があり、この開館期間の来館者数は 1224 名で土日曜日と祭日には多くの鉄道ファンが来てくれました。

酔童感話　第 40 話　激動の令和のはじまり

伊達萩丸

本当に令和は激動・変化から始まった。新型コロナウィルスによる社会問題から、「働き方の変化」へと急速に社会状況が変わった。６月９日に当水倶楽部の「基礎知識普及部会」を、Zoom（ズーム：オンラインミーティングアプリ＋インターネット＋PC）で行った。本件は、Zoom Meeting 主催者(ホスト)の押領司様から別途報告があると伺っている。

とにかく、６月 28 日現在で世界全体の感染者数累計が 1000 万人以上、死者数累計が約 50 万人以上。２月 28 日での感染者数累計が約８万人、死者数累計が 2700 人であった事から、４ヵ月で感染者数が約 120 倍以上、死者数が約 185 倍以上の激増である。

現在の感染ピークは米国。感染者数 250 万人(世界の１/４！)、死者 12 万人を越えた。一時緊急事態宣言を解除したらしいが、再び「州」を越えての人の移動を制限するらしい。米国は２月にインフルエンザが大流行、感染者数 2200 万人、死者１万２千人以上であったから、まさに踏んだり蹴ったり。米国でのコロナウィルス新規感染者数は６月に入って再び上昇中であり、感染の第２波発生という事か。

さて日本は、４月７日に最初の「緊急事態宣言」が発令され、５月 25 日に解除されたが、東京では、再び新規感染者が増えている状況。また、この約２ヵ月間で、会社の勤務形態も大きく変わった。テレワークが積極導入された。会議を Zoom で行う事が出来るのだから、個人で出来る作業は、「会社に出勤」せず済ませる事が可能になった。IT 技術の高度化により、この傾向は加速するであろう。事務所に行かずに出来る作業は、自宅で行う形になる。フレックスタイムの導入も加速するだろう。

ところで、不評の「アベノマスク」。萩丸は６月２日に入手。その時点で緊急事態宣言は解除済、使い捨てマスクも約 45 円/枚で店頭入手可能。アベノマスク配布に 260 億円かかったとの事。この費用は税金として国民が負担。安倍首相のポケットマネーではない。228 円＠国民一人当たりのマスク代＝「配布費用÷（総世帯数 5700 万×各世帯２枚＝1.14 億)」。皆が使わないアベノマスク。国民が 228 円で買わされたという事か？納得出来無い・・・。今回、医療破綻は起きなかったが、こんなことなら、現在も不足中の「医療用特殊マスク＋防護服」を調達すれば良かったのにと思うのは、萩丸だけか？

新型コロナウィルス感染世界マップ：日経新聞電子版
https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-world-map/

新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言概要

https://corona.go.jp/news/news_20200421_70.html

アベノマスク配布

https://mainichi.jp/articles/20200625/k00/00m/010/364000c

編集幹事のあと整理

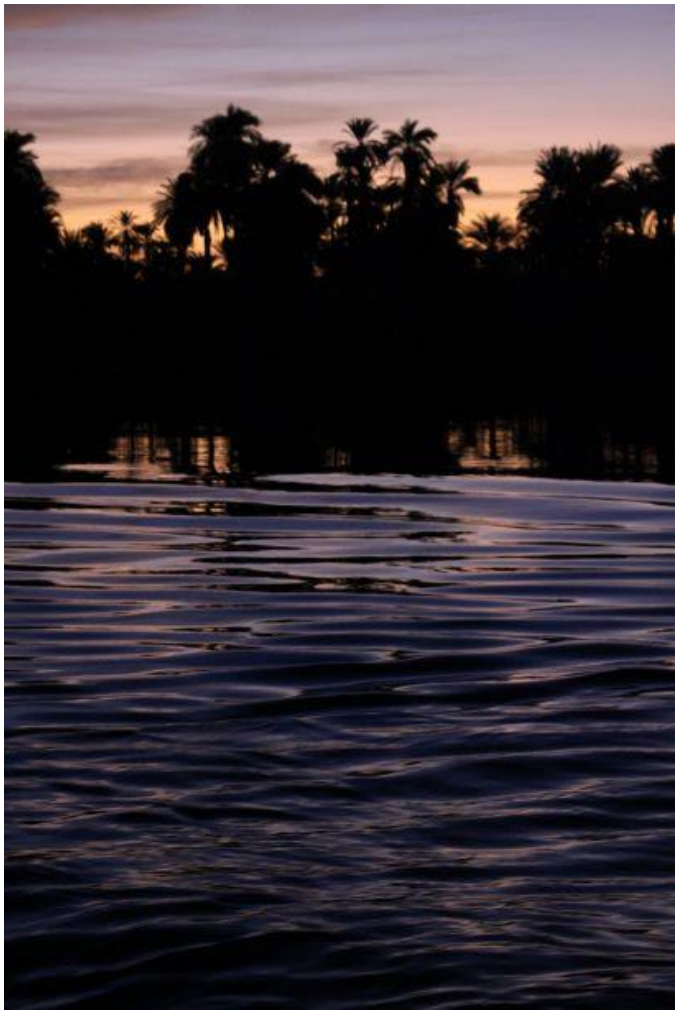
○　今号は通常総会報告と各部会の活動状況、そしてそれらがリモート（オンライン）で行われているとの報告文とで盛りだくさんになっています。

○　その総会への実出席者は極少で、その報告を一刻も早く全会員の元に届ける必要がありました。そこで、原稿依頼から締め切りまで１週間の短期でお願いしたところ、全稿締め切り日を遵守いただきました。この場を借りて執筆担当者に感謝申し上げます。

○　次号からも週刊誌並みに締め切りまでの期間を短縮するつもりです。

○　会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



アスワン下流のナイル川、早暁